

シンナガサキミーティング開催レポート

銅座・思案橋編



令和6年11月18日(月)、思案橋市会、思案橋横丁会、銅座町商店街組合の10人の皆さんにお集まりいただき、「シンナガサキミーティング 銅座・思案橋編」を開催しました。

ミーティングでは、夜の街を盛り上げるために考えていることや飲食店などを経営する中で日頃感じていることなどについて、広く意見交換しました。

いただいたご意見

①銅座川プロムナード整備と空き地の整備について

銅座川プロムナードの整備は、事業が5年延長となった。空き地を活用してイベントを行っているが、工事の進行が優先されるべきだと思う。空き地の見栄えが悪く、柵も不完全で放置されているので危ない。

市の考え方
回答

銅座川プロムナード事業が5年延びて大変申し訳なく思っています。公共事業は様々な要因で遅れることがありますが、特に用地買収が課題となっています。令和6年度末時の面積ベースでの買収率は約90%です。引き続き、地権者に丁寧な説明、交渉を行い、早期の用地取得を進めていきたいと考えています。

また、空き地について、整備可能なところは暫定の舗装工事を行い、歩行者が歩ける環境を確保していきたいと考えています。

なお、柵が不完全だった箇所については、令和6年11月30日に仮フェンスの設置を行いました。

②銅座川プロムナード整備後のごみ回収やリサイクルについて

銅座川プロムナード整備後のごみ回収場所を作る考えはないか。また、廃油や生ごみを改修して、リサイクルする考えはないか。

市の考え方
回答

銅座町のごみの収集方法については、平成23年頃から地元と長崎市で協議を重ねた上で、現在の軒先回収の形で実施するに至っています。軒先回収については、ゴミステーション収集と比べて収集に係る手間やコストは増えますが、市民のごみ出しの手間軽減や違反ゴミを防止する観点からもメリットがあります。一方、ゴミステーション収集については、収集の手間等は減りますが、ごみ出しマナーが守られず、地区外からのごみの持ち込み増加や違反ごみの排出による悪臭など苦情につながりやすいなどのデメリットもあると考えられます。

繁華街という地域の特性を踏まえ、軒先回収及びゴミステーション収集のそれぞれの利点等を勘案すると、当該地区においては、現在実施している軒先回収を継続することで、廃棄物の適正処理や地域の環境美化につながるものと考えています。

飲食店から排出される廃油は、産業廃棄物に該当するため、市では処理ができません。民間の処理業者に依頼し、適切に処理していただく必要がありますが、食用油のリサイクルについては、先進都市の調査を行うなど検討を進めます。

また、生ごみについては、事業廃止などによりリサイクル事業者の確保が困難な状況であるため、市では3010運動などの食べきり運動により食べ残しが出ないような取組を推奨しております。

③ごみの回収時間やカラス対策について

ごみ出しについて、毎年のようにカラスの被害が出ている。この地域は飲食店が多いので、カラスが荒らす前の早い時間帯の回収や夜回収はできないか。

市の考え方
回答

長崎市では、当該地区も含め、観光客が多く訪れる観光地、中心市街地及び一部の幹線道路については、早朝収集箇所と位置づけ、午前7時にはごみ収集を開始するとともに、市民の方には、午前8時までにごみを出すよう周知していることから、午前8時以降に再度、1回目の収集後に出されたごみの収集を行う2回収集を実施しています。

また、地区内において適正なごみの分別、排出が行われるよう、周知や違反ごみ等への対応に協力する内容の覚書を、平成29年度に銅座町自治会と本市との間で締結するなど、これまでも取り組んできたところです。

処理責任の観点からは、本来事業所から出るごみについては、排出事業者処理責任があるため、現在行っている行政収集の収集時間や収集曜日において、事業所用ごみ袋を用いてごみを出していただくことが難しい場合には、民間の処理事業者に依頼して処理を行っていただく必要があります。

なお、ごみ収集の夜間実施については、現在の収集体制に比べて経費が高くなることや狭隘な道路や斜面地が多い地理的な特性など課題も多くあることから、実施は困難であると考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いたします。

カラス対策については、設置可能な場所に限りませんが、試験的にカラスバスターという140mm×140mmのプレートを取付けて効果を検証しているところですので、今後も引き続き関係部署と有効策などについて検討してまいります。

④長崎スタジアムシティからまちなかへの回遊について

長崎スタジアムシティの開業効果をまちなかに波及させるために、銅座稲荷神社に必勝祈願の絵馬を作ったり、呼び込みイベントを検討したりしている。人が回遊するような仕掛けがあればいいと思う。

市の考え方
回答

長崎スタジアムシティの開業による交流人口拡大を地域経済への波及につなげるため、サッカー観戦者のまちなか回遊を促し、まちの賑わい創出・消費拡大につなげることを目的に、まちなかエリアと長崎スタジアムシティを直接つなぐシャトルバス運行の実証実験を3月1日から行っています（V・ファーレン長崎のホームゲームの際に運行）。今シーズンのゲーム開催時に運行する予定としており、人流分析やアンケート調査なども行いながら、今後の取組みを検討していきたいと考えています。

鈴木市長のひと言

貴重なご意見をいただきありがとうございました。日頃、お仕事をされる中での、困りごと、悩みごとなど、色々なお話を伺うことができました。

飲みに行くなら「銅座・思案橋」というイメージもありますし、長崎のナイトエコノミー中心地でもありますので、この地区をしっかりと盛り上げることで、長崎のまち全体を元気にできるよう取り組んでいきたいと考えています。今後も長崎の経済活性化のために、市も色々な形で一緒になって考え、一緒に汗をかいて頑張っていきたいと思っております。



参加者からの感想

スピード感のある進捗の報告と話し合いを増やしてほしい。これを機会に良いところを伸ばしていけたら

楽しい話、勉強になりました。人が沢山来るまちにしたいと思います。

商店街側も意見を聞いて共有していけたらと思う部分がありました。その中で市長がいてくれたので、今後活かしていけたらなと感じました。

直接意見を出すことができてよかった。

